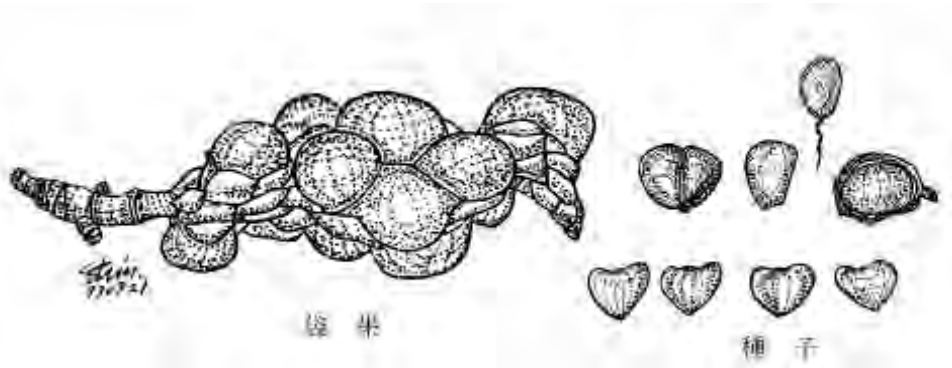


きたこぶしの袋果

“珍しい木の実を採ってきたよ”，しかもこのハート形の種子をみて，“何の樹種だかわかるかい？”と分場長が言った。

きたこぶしの果実は奇妙な形をしていて、心皮の集合体であり、袋果とよばれる。9月も末になると、袋が開裂して、朱紅色の仮種皮をもった種子が顔を出し、白い糸で垂下する。垂れている時に、鳥に食べられ、別の場所に種子を運ばれるらしい。仮種皮を除いたら、腎形ないしハート形の黒い種子が出てきた。苗床に播種するよりも、糸を通して、首飾りにでも作りたいしろものである。



(道北分場 斎藤新一郎)